

観ると語りたくなる映画です。

2016年第90回
キネマ旬報ベスト・テン
日本映画第1位
アニメ作品受賞は『となりのトトロ』以来
28年ぶり2回目
監督賞 受賞
(アニメ監督の受賞は史上初)

第40回
日本アカデミー賞
優秀アニメーション作品賞 受賞
優秀音楽賞 受賞

第71回
毎日映画コンクール
日本映画優秀賞 受賞
アニメーション部門 大藤信郎賞 受賞
スタッフ部門 優秀音楽賞 受賞

ここに掲載させていただいたコメントは、著名人のみなさまが自らSNSや出演番組などで語っていただいたものです。映画公式HPには他にも多くのコメントを寄せていただいています(敬称略・順不同)。

みんな、一秒もむだにするまいとスクリーンを眺めていた。「なんでもない日」、「なんでもない人」、「なんでもない場所」が、ほんとうに大切に描かれていた。

糸井重里 (コピーライター)

空の高さ、雲の大きさ。そして、音の力。長く伝わっていくことになるだろう名作。のん、以外考えられない適役。素晴らしい演技。

犬童一心 (映画監督)

まるで自分がこの物語の登場人物になったかのように。エンドロールの最後の最後まで物語は続く。僕は涙を流す。悲しいだけではない。

嬉しいというも違う。色々な感情がない交ぜになった温かい涙。この世界の片隅に我々もまた生きている、という自負と感動。

黒沢薫 (シンガー)
(ゴスペラーズ)

「この世界の片隅に」の可愛さと強さと優しさよ。
海野つなみ (漫画家「逃げるは恥だが役に立つ」)

今すぐもう一度観たい。あの町や海や畑を見に行きたい。やばいまた泣きそうだ。

吉田戦車 (漫画家)

野の花、雲、虫、画面の隅々、一瞬ごとに深い思いが込められ、観るたびに層がめくれて、新しい物語が見えてくる、何度でも観るべき映画です。

町山智浩 (映画評論家)

地上からの視点で描き続けて、貫いているところ。主人公のキャラクター、生き方にのんさんの声がとても合っていた。たましいが伝わり感じられる素晴らしいお仕事だと思いました。長く心に残る作品となりました。

茂木健一郎 (脳科学者)

戦争という時代を懸命に、そして明るく生き抜いた一人の女性の物語。衝撃的なドラマでありながらも、全編から伝わってくる前向きな勇氣。世界が大きく変化していく今だからこそ観て欲しい…とても心魅かれた作品でした。

谷村新司 (音楽家)

戦争を描いているのに、「うわっ悲しいな、戦争って怖いな」という印象をあまり押しつけてこないんですね。

山里亮太 (芸人)

のんさんの声、とても良かった。すずさんそのもの。日常の美しさ。懐かしくて温かい言葉と想いが、スクリーンからびびしと心に。是非映画館で。

西田尚美 (女優)

かねてから悲しみだけで戦争の悲惨さを伝えるのには限界があると思っていました。この映画を見て、笑ってほのぼのして、戦争は悲惨だ。

伊集院光 (タレント)

観たときにこの映画の役に立ちたいと思った。片瀬監督はこの作品で海外でも、日本を代表する監督になる予感があります。

いとうせいこう (作家・クリエイター)

冒頭から何故か涙腺を刺激され、笑って息を飲んで、観終わった後は道行く人に幸あれと思ってしまふような映画。

ゆうきまさみ (漫画家)

参った。途中から泣けて仕方がなかった映画は初めてかもしれない。のんさんの声を聞くと、主人公のすずの孤独と脳内でシンクロして余計に泣けた。すごい、とにかく、すごい。

鴻上尚史 (劇作家・演出家)

停電の夜に、ロウソクの灯りのもとで母が語ってくれるようなお話は、国の歴史というよりも親戚の家族史だ。歴史に翻弄された時代にあった一つ屋根の下の生活は、時間を越えて私たちの物語になる。

奈良美智 (美術家)

あの時代の生活のディテール描写がすごい。原作者と監督はだいたい僕と近い世代のようだけど、よくあそこまで調べて作られたな…と脱帽。

会田誠 (現代美術家)

評判どおりの名作だった…。センター街歩いている自分が夢のよう。まだぼーっとしてる。劇場行けてよかった…。

二ノ宮知子 (漫画家「のだめカンタービレ」)

基本、アニメは苦手だけど、全くもって気にならずどっぷり。大戦中の日常が押し付けがましくないぶん、グッとくるなあ。

大久保佳代子 (タレント)

映画館を出る時、観る前の私の心に、ちゃんと生きる喜びが上乗せされているのが心地よかったです。のんさんの声の演技、すばらしかった!

矢野顕子 (音楽家)

劇場を出て何時間経っても涙がポロポロこぼれてきてしまいます。

スガシカオ (シンガーソングライター)

通算4回目の「この世界の片隅に」を鑑賞して、あと何回劇場で観れるんだろうと思った。劇場で性別も年齢も全然違う人たちと一緒に笑ったり泣いたりするって、改めて考えるとすごい体験だ。僕らのライブもそういう体験になれていますように。

歌広場淳 (ミュージシャン)
(ゴールデンボンバー)

すばらしかったです。どんなに悲しいときも、ユーモアを忘れない人々の描き方が特に。

万城目学 (作家)

あまちゃんでご一緒したアキちゃんが、こんな形で帰ってきたことだけでも素敵なのに、それ以上に映画そのものが素晴らしいことが、本当に嬉しかったなあ。

大友良英 (音楽家)

主人公すずのキャラクターがとてもいい。そしてのんちゃんも。悲しいエピソードもあるが、淡々と描かれていて、それが余計に強く胸に来る。

いのうえひでのり (劇団☆新感線 主宰・演出家)

話題の映画「この世界の片隅に」を観てきた。軍港の呉を舞台に戦前戦後を通じて、様々な辛苦を乗り越え、明るく優しく健気に生きる一庶民の女性に心を打たれた!先日、行った広島島の記憶が鮮明なうちに観られて良かった。心が重くなりながらも内容をアニメならではの優しい演出で、見事に表現していた。

古谷徹 (声優)

昭和20年に向かう日本。絵を描くことが好きだった18歳の女の子が、何となく軍港、呉にお嫁に行き、次第に巻き込まれていく戦禍。さりげなくいじらしく、でもまさにこれが戦争。「この世界の片隅に」のような、地味な、でも確実に生きる名もない人の姿を伝えてくださる作品を、高く評価する人々がいてくれる日本を、本当に誇らしく思います。

湯川れい子 (音楽評論家・作詞家)

この世界の片隅に



のん 細谷佳正 稲葉菜月 尾身美詞
小野大輔 潘めぐみ 岩井七世 牛山茂 新谷真弓/澁谷天外 (特別出演)

原作: ころの史代『この世界の片隅に』(双葉社刊) / 音楽: コトリンゴ / 監督・脚本: 片瀬須直

企画: 丸山正雄 / 監督補: 画面構成: 浦谷千恵 / キャラクターデザイン: 作画監督: 松原秀典 / 美術監督: 林孝輔 / プロデューサー: 真木太郎
製作統括: GENCO / アニメーション制作: MAPPA / 配給: 東京テアトル / 助成: 愛文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金 / 製作: 「この世界の片隅に」製作委員会

konosekai.jp



©ころの史代 双葉社 / 「この世界の片隅に」製作委員会